

# 宇都宮文化財マップ。

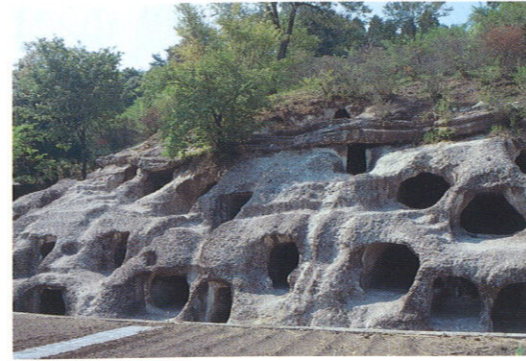
—まほらばの里を訪ねて—



県指定史跡 なが おか ひゃく あな こ ふん 長岡百穴古墳

宇都宮市教育委員会

## なが おか ひゃく あな こ ふん 長岡百穴古墳 ■ C・3



凝灰岩が露出した斜面に掘り込まれた横穴群は、現在52基(東群44基、西群8基)が南を向いて開口しています。

これらの横穴の基本形態は、羽子板型の玄室から玄門を経て直接前庭部へ続くもので、羨道に当たるものはみられません。玄門には扉石をはめこんだと思われる切込みがあり、当時は、ほとんどの横穴に扉石があったと思われます。

この横穴群の造られた時期は明らかではありませんが、全国的に横穴群が広がった7世紀前半と位置づけるのが適当であり、群集墳のように家族墓的性格をもったものといえそうです。

なお、現在各室に観音像等がありますが、これは後世のものです。

[昭和30年7月26日 県指定]

## もく ぞう しょう かん ぜ おん ぼ さつ りゅう ぞう 木造聖観世音菩薩立像 (山本観音) D・4



聖観世音菩薩立像とは、人々の求める声に応じて直ちに救いの手をさしのべてくれる菩薩です。

この像は、江戸時代に造られたもので、左手に蓮華(はすの花)を持ち、金箔を塗った寄木造りです。慈悲相と呼ばれるやさしい顔つきで、多くの人々の信仰を集めています。

この像は、浄土信仰を確立したといわれている源信(げんしん 恵心僧都)の作という伝承があります。

※通常は非公開です。1年に1度開帳されます。

[昭和47年11月6日 市指定]

## や ぐち やま こ ふん 谷口山古墳 【インマヌエル宇都宮キリスト教会】 ■ C・4



この古墳は、古墳時代後期(6世紀後半)、田川右岸の宇都宮丘陵南端部に築かれている横穴式石室をもつ円墳と推定されます。

横穴式石室が未開口であったため、人骨及び副葬品は、ほぼもとの位置のまま確認され、当時の埋葬形態をうかがい知ることのできる貴重な古墳です。

[平成3年11月27日 市指定]